

# ピアノを趣味として生涯楽しみたい方へ ピアノレッスンの考察

## はじめに

何か生涯を通じて一人でも楽しめる趣味を持ちたい！とお考えのあなた、音楽、それもピアノを始めてはいかがでしょうか。

“でも、ピアノをちょっと弾けたらカッコいいけど、ピアノは難しい？”とお考えではないでしょうか。

子供達、特に女の子ならピアノ教室に通うのが当たり前の時代ですが、その多くがレッスン途中で挫折（一説では90%）しているのはご存知かと思います。

大好きなピアノで、しかも物覚えが早い子供達でも、なぜ途中止めをするのでしょうか！？ましてや物覚えが悪くなった中高年なら尚更のことです。

その原因は、今までのピアノレッスンが音大受験や、クラシックのピアニストを目指すためのものであり、趣味でピアノを弾くという目的とは大きく違っていたことにあったように思います。

当たり前ですが、めざす所や目的が違くとアプローチやプロセスも違うのは当然のことです。

最後までお読みいただくと、同じピアノでも従来のレッスン手法では難しいけれど、これからご提案するレッスン手法では、なぜ、自分が知っている曲や大好きな曲が自由に、しかも少ない努力で、比較的簡単に弾けるようになるかご理解いただけるとと思います。

確かにピアノを自由に弾くのは少々難しいことかもしれませんが、レッスンの方法（アプローチやプロセス）を変えれば、十分、可能だというお話です。

それでは従来、街の教室で教えられているピアノレッスン手法の問題点と、これからご提案するレッスン手法は、具体的にどのように違うのかを詳しくお話します。

## 従来のレッスンでは、挫折の可能性は高い！？

ピアノレッスンを思い立ち、月謝は？レッスン時間の長短は？グループレッスン？個人レッスン？月に何回のレッスン？というような資料を集め、その中から、自宅から比較的近い教室で良かれと思われる教室を選び、思い切って勇気を出して教室を訪ねようとしているあなた。

ところが準備万全で始めても、当初の志の高さや努力に関わらず上達が極めて悪く、やっぱりピアノは無理とか、向いてないんだ！と挫折や落胆する方も意外と多いのではないかと思います。

それでは現状のピアノ教室の意外な問題点と、レッスンが上手くいくための重要なポイントをこれから詳しく解説をしていきますので、できれば最後までお読みいただければ幸いです。

ピアノは魅力的だけど、カッコよく、本人が満足するようにピアノが弾けるようになるのか？これがこのガイドブックの重要なテーマですが、結論からいうと、現状のレッスン手法ではなかなか難しいものがありますが、レッスン手法を変えると大丈夫ですという話なんです。

もちろんプロのピアニストを目指すことや、難解なクラシック曲を完璧に弾きこなすようになるのは、かなりの訓練と才能が必要かと思えます。しかし、個人が趣味で楽しみのために弾くピアノ演奏は十分に可能です。

おぼろかし

### 異色ピアニスト、小原孝のコンサート

話は変わりますが、小原孝さんのピアノコンサートに行かれたり、CDをお聴きになられた方はおられますか？

そんな話は本題に関係ないとお考えになられるかも知れませんが、全体を理解する上で大切ですので、少し我慢しておつき合い下さい。

実は、彼のピアノコンサートは、曲のジャンルを問わず好きなメロディーを弾くというのが彼の主張です。

その結果プログラムは、美空ひばり（演歌）からショパン（クラシック）まで、自分の好きなメロディーを選んだ結果、曲のジャンルを問わず楽譜なしで演奏をします。ですから、ピアニストとしてはとても異色の存在ですが、彼の聴衆は子供からお年寄りまでと、そのファン層の年齢はとても幅広いのが特徴です。

ここでご注目いただきたいのは、彼自身は音楽大学を出ていますが、実は、その演奏スタイルが、従来のクラシックピアノの奏者のように譜読みに頼った（楽譜の音符を読んで、楽譜に忠実な演奏する）演奏スタイルではないということです。

それはどういうことかと言いますと、いちいち正確に譜読みをせず、知ってる曲（メロディー）に、コード（和音）をつけたピアノ演奏だということです。その大きな特徴は、自分の知ってる曲なら、楽譜がなくてもたいがいはずぐ弾けるし、その時の気分で演奏しますので、同じ曲でも、毎回、微妙に違うということです。

### **あのジャズシンガー綾戸智恵さんも**

似たような有名人としては、関西出身のジャズ・シンガー 綾戸智恵さんがいますよね。彼女もピアノでコードを弾いて自分で唄っているわけで、同じ曲でもその時の気分で随分違いますよね。でも自分の感情にあわせたピアノ演奏が容易にできます。このような演奏スタイルこそ、皆さんにも、ぜひ提案したいものです。

### **演奏スタイルの基本を変えよう！**

演奏手法のアプローチを小原孝さんや綾戸智恵さんのように変えると、仮に高齢者の素人でも、特に自分がメロディーを知っている好きな曲なら、練習そのものも楽しいですし、短期間の訓練でピアノ演奏が十分可能です。

従来のピアノレッスンといえば、一般にはクラシックという風なイメージで捉え、音楽大学のピアノ科を卒業した先生について、楽譜に忠実に基本から正しい？ピアノ演奏法を身につけないと、ピアノは上手にならないという風に考えられています。ピアノに限らず、何事も基本が大切なのですが、肝心のその基本が従来と異なっているということです。

従来のレッスン方法ですと、何よりも基本を大切に、指の練習（ここは同じ）と譜読みを中心（ここが異なる）としたピアノのレッスンがなされます。

結果として、楽譜に正確に弾くことを強いられますので、右手も左手も、楽譜に忠実に弾かなければいけないという意識が強すぎて、ピアノ演奏がとても難しくなってしまいます。

実は、楽符に忠実に演奏するというのは、一流のプロでも、同じ曲を繰り返し、相当の練習を積まないと難しいものです。

### **趣味ならば、良い点数を取らなくても良い？！**

将来、一流音大のピアノ科の受験を控えているならば話は別ですが、あなたやあなたのお子様が趣味のピアニストを目指すのなら、無理して従来のクラシックの価値観からみた良

い点数を取らなくても良いわけです。

ですから、例え、自己流の解釈の演奏でも、また仮にミスしても、そのために落第したり、不合格になることはありません、むしろポピュラーミュージックやジャズピアノなどの解釈では、個性的な演奏で誉められるかも知れません。

### **今迄のピアノ教室とは？**

日本のピアノ教育は、楽譜に忠実に練習し『バイエル何番、チェルニー何番程度の演奏力とか、昔、何番までやりました』という表現がよく使われます。

しかしそれらは無駄とは言いませんが、従来のレッスンは、クラシックピアノで音楽大学に合格するため、或いはコンクールで上位入賞を目指すためのピアノ教室ですので、そのために譜読みを大切に、楽譜に忠実に正しく課題曲を弾くという価値観でピアノレッスンをしています。

結果、せつかく子供の頃からピアノを始めた人も、本来のピアノ演奏の楽しさを知らないまま、漠然となかば強制的？にレッスンを続けたために、ピアノ演奏に対する苦手意識が強くなり、そのうちだんだんピアノ演奏がイヤになって、たいがいは、勉強や仕事で忙しいという理由でピアノを途中辞めしてしまっています。

たとえば少し違うかもしれませんが、体で覚えるものに自転車や水泳がありますが、一旦、自転車に乗れる、水に浮くという自信が持てればいつでも再開できますよね。ピアノもこれと同じで、本来のピアノ演奏の基本をマスターすれば、その時の演奏レベルはともかくとして、自分はピアノが弾けるという漠然とした自信はつくはずです。

しかし従来のピアノレッスンの手法ですと、子供の頃、音楽教室に通っても、多くの人がピアノに対して弾けるという漠然とした自信がなぜつかないのでしょうか。

それは、とても難しい演奏スタイル（楽譜に忠実に演奏しなければならない）で指導してきた教師側が、ピアノ演奏をとて難しいものにしてきたからです。これは文法を重視した日本の学校の英語教育に似ていますね。

アメリカのジャズシーンをみていますと、子供時代に、正式にピアノ教育を受けてないだろうと思われる黒人ミュージシャンが、感性豊かにピアノを弾きますよね。おかしいと思われませんか。

## 日本の音楽大学では、クラシックが最高位！

じつは日本の音楽大学の風潮もそうですが、教える側の音大を出られた先生の視点も、クラシック音楽を最高レベルの音楽としての価値観を持っている先生が大半のように思います。

他のジャンル、例えば、ポピュラーミュージック、ジャズ、特に演歌などは蔑視の目で見られる大学教員が多くおられます。たぶんそれは、ポピュラーミュージックやジャズが、クラシックピアノ奏者の視点からみると、その時どきの気分で、自由に演奏するので、たぶんいい加減のように見えるからかも知れません。しかし、別の観点から見ると、自由に演奏するという事は、とても自然で人間的な行為のように思えます。

## 正しいピアノ演奏とは！？

日本のクラシックピアノの奏者（主としてピアノの先生）は、正しいか？正しくないか？クラシックの難解な曲をいかに楽譜通り、寸分間違わずに、ミスなく演奏出来るか？ということに重点がおかれ、幼少の頃よりそのような価値観に基づいたピアノレッスンを受けてきたように思います。

しかし、これは日本の英語教育と同じで、文法の間違いが怖くて英語が喋れないのと同じです。そのような価値観の音楽教育を受けて音楽大学を卒業した方は、やがて自分がピアノを教える立場になっても、基本的に生徒にも同じような価値観を要求します。結果としてこれまで多くの子供達（90%以上）が、挫折をしてしまいました。

## 趣味で、個性豊かにピアノを弾こう！

ここでいう挫折とは、ピアノ演奏が好きで、上手い、下手は別にして、生涯、ピアノを弾きつづける人のことを挫折しなかったと考えています。

このガイドブックでは、初心者の子供や大人が目指すピアノ道を、上手い、下手に関わらず、ピアノが好きで趣味で自分自身の楽しみのために、生涯、ピアノを弾き続ける人を、ピアノレッスンに成功したと考えており、このガイドブックは、ピアノが好きで（上手い、下手は別にして）生涯ピアノを弾き続ける人を増やしていくことを使命としています。

## 従来の考えを、一度リセットしよう！

曲そのものは、ポピュラー曲でもクラシックの名曲でも良いのですが、初心者が、あまり努力や苦勞せずとも、比較的簡単（好きな曲なので、努力や苦勞はあまり要らない）に自分の好きなメロディーを自分なりに弾こうとした場合は、考え方として、両手を全て楽譜に頼り、それを正確に演奏をするという従来のクラシックピアノの考えやレッスン方法か

ら、一度、離れて見る必要があるのではないかと思います。

### **クラシックピアノとポピュラーピアノ、ジャズピアノの違いは？**

ピアノを聴く側では、単に曲のジャンルの違いだけで、同じピアノ演奏という風にお考えの方も多いと思いますが、実は、同じピアノ演奏でも、クラシック的ピアノ奏法と他のジャンルのピアノ演奏では、その手法（考え方）が、かなり違う部分があります。

繰り返しになりますが、クラシックのピアノ演奏は、基本的に原曲、あるいは楽譜に忠実に演奏することが求められます。

その対極にあるジャズピアノは、楽譜に忠実に演奏するとダメ？（センスがない）で、楽譜通りに弾くのではなく、その時の気分で勝手気ままに、アレンジして演奏するから、逆にそれが、演奏者にも聴き手にとっても魅力的ですし、何回演奏しても、毎回少しずつ演奏が違います。

### **楽譜に忠実に演奏することは、フロでも大変難しい！**

例えは少し違いますが、自分が役者になったと仮定してみてください。

#### **①クラシック的な従来のピアノ奏法**

あらかじめ渡された台本を、本番で台本通りに、一字一句、絶対に間違いないように、喋らなければならないとすると、それはどんな名優でも大変難しい(不可能?)ことだと思いませんか？それと同じことを求められるのが、言わばクラシックピアノの楽譜に対する演奏スタイル（概念）です。

#### **②ポピュラー的なピアノ奏法**

台本の話の筋を理解して、基本的には台本通りに喋るのですが、必ずしも細かい言葉は、完璧に台本通りに喋らなくても、話の筋に違和感がなく、不自然でなければそれで良いという風に考える、楽譜に対する演奏スタイルがポピュラーピアノの考え方です。

#### **③ジャズ的なピアノ奏法**

最初と最後の結論さえ合えば良いという考え方で、途中は自由にアドリブを楽しむという考え方が、言わば、ジャズピアノの演奏スタイルです。

いかがですか？渡された台本を、本番で一字一句、間違いないように、完璧に喋るとするのは、一流の役者さんでも、大変、難しいのではないのでしょうか。

それと同じ意味でクラシックピアノ的に、正確に楽譜を再現することを要求される演奏は、演奏者にとっては大変難しいわけです。

ここでいうクラシック、ポピュラー、ジャズピアノと言っているのは、曲のジャンルのことではなく、楽譜や演奏に対する考え方、概念（演奏の表現方法や楽譜の表記等）の違いを言っているわけです。

## 同じ楽譜でも、2段譜と1段譜の違い

### 2段譜

例え同じ曲を演奏する場合でも、楽譜が2段譜（右手も、左手も音符♪で書かれているもの）が、ここで言うところのクラシックピアノ的な楽譜です。

### 1段譜

楽譜が1段譜、これは右手（メロディー部）だけを音符で表し、左手はコード（和音記号）で表現しているものが、普通のポピュラーやジャズの楽譜です。

ここで言いたいのは、曲そのもののジャンルがポピュラーミュージックとかクラシックという分け方ではなく、あくまで楽譜や演奏スタイルの違いをお伝えしたいわけです。

右手も左手も音符で書かれているのがクラシック的な弾き方（楽譜）で、右手だけを音符で表し、左手をコードで表すのがポピュラー・ジャズ的な弾き方（楽譜）ということになります。

## 素人には難しい、クラシック的演奏法

両手を、全て音符で表した場合は、誰が演奏しても、正確に同じ演奏になるのが利点です。しかしながら、一音でも外すとダメで、そのためには全て暗譜するか楽譜が手離せませんし、演奏内容が細かく制約されるので、例え同じ曲でも演奏がとても難しいものになります。

逆に言えば、この神業的な演奏をするのが、クラシックのプロピアニストならではの見せ場ということになり、それがまた魅力的なわけです。

でも、素人の、特に初心者には難しいのではないのでしょうか。

## 素人に優しいポピュラー的な弾き方

その点、左手のパートをコードで表した一段譜ならば、基本コードさえ押さえれば楽譜に近い演奏も可能ですし、違和感なく楽にピアノ演奏ができます。

ポピュラーやジャズ的な演奏の場合は、同じ楽譜でも、以上の理屈から楽譜といっても、メロディーに簡単なコードを書いたメモ書き程度のようなものです。

そのような背景がありますので、試しに、ポピュラーピアノやジャズピアノの堪能な先生や演奏者に演奏をお願いすると、自分の知ってる曲であれば、楽譜がなくても、適当ではあります（ここが重要です）、すぐに目の前で弾いてくれるはずですよ。

ギターなどではよく目にする光景だと思いますが、ピアノでもそれは同じです。

ここまで読んでいただくとお気づきになられたかと思いますが、筆者の考えとしては、ピアノ初心者が、完璧を目指して、わざわざ難しいクラシック的な演奏手法で、しかも、あまり楽しくない、いわゆる練習曲というものからピアノを学ぶのは（音楽大学を目指すなら別ですが）、いかに大変かご理解いただけたと思います。

### **ポピュラー的ピアノ奏法を身につけよう**

ポピュラーピアノ的な演奏手法を学ぼうとした場合、当初から自分の大好きな曲を先生に優しくアレンジしてもらって（同じ曲でもアレンジにより、優しくも難しくにもなります）最初から好きな曲でピアノ練習に入られた方が圧倒的に楽しく自信もつきます。お気に入りの（憧れの）曲が練習曲なので、例え3ヶ月の練習でも、ちょっと人前で弾いてやろうかという気持ちにもなってきます。

そして、ピアノ演奏の楽しさと自信がつくに従い、ちょっとかっこよくアレンジしてバージョンアップを楽しんだり、レパートリーを増やしたりしてピアノ演奏に自信を持ち、さらに興味があればクラシック的な弾き方（右手も左手も音符で書かれている楽譜）にも、おいおいチャンレンジして行くようにすれば良いのではないかと思います。

### **従来のレッスンの問題点**

従来のピアノレッスンの問題点は、楽譜に忠実に弾くことを重視し過ぎるため、弾きたい曲に入る前に多くの練習曲や指の訓練が続き、ピアノ演奏の楽しさや自信がつく前に、ピアノをやめてしまうことです。

逆に筆者の提案する方法ですと、仮にあまり練習しない怠け者でも（でも楽しいから練習をする？）、また、楽譜を読むのが苦手な人でも、コードを覚えれば、ある程度どんな曲でも弾けるわけですから、早期にピアノ演奏の楽しさと自信を身につけられるはずですよ。

一旦、楽しさと自信がつくと、後は、前に進むだけで、練習も特に苦痛にならないはずですよ。

知っているメロディーや好きな曲なら、楽譜にあまり頼らず、懐かしさと記憶をたどりながら、短期間で、自分のイメージで弾けるようになり、それだけで感激ものだからです。ここから、スタートして、自信をつけながら徐々にコードを増やしていくと、プロ顔負け

の感涙ものの演奏になります。いかがでしょうか。

### **問題は、肝心の先生がほとんどいないこと**

以上のように、見方、発想、学習方法を変えるとピアノはそんなに難しくないとというのが、ご理解いただけたかと思います。ほんとうは、ここからが一番の問題なのですが、今ではどこも街にもたくさん先生の先生や教室はあるのですが、意外なことに上記のような肝心のポピュラー的ピアノを指導できる先生や教室が、ほとんど無いということなのです。

その理由は、ピアノの先生と言えば音楽大学を卒業してピアノ講師になられている方のほとんどがクラシックピアノ派で、楽譜通り演奏をするということが習慣化していますので、逆に、コード演奏や自分でアレンジしての演奏は極めて苦手です。

ですから、簡単なポピュラー曲でも楽譜が必須で、しかも2段楽譜を使い、あくまで楽譜に忠実にクラシック的奏法でピアノをお教えしますという方法です。

ですから生徒さんの大好きな曲を、生徒さんの技術にあわせて**優しくアレンジする**という、生徒さんごとの個別対応を望むのも難しい話です。

ですから、先生が生徒さんが希望する曲を優しくアレンジできないので、仮に生徒さんがあの曲が弾きたいと望んでも、それはレベル的にあなたにはまだ無理という判断になります。

そのような背景がありますので、思い立って近くのピアノの先生や音楽教室や講座に通っても、年月と練習量の割に、なかなか上手くなりませんし、挫折して失敗に終わる可能性も高いわけです。

それは、いくら優秀な音楽大学を卒業された先生でも、先生自身がクラシック音楽ばかりで、あまりポピュラー理論やポピュラーピアノ（コード）を学習したことがないから、そのような発想がないからです。

### **できれば先生が優しくアレンジを**

初心者にとって、本当に大好きな弾きたい曲があれば、先生がその曲を、生徒さんの技量に応じてアレンジして楽譜にしてあげる必要が出てきます。

同じ曲でも、先生自身が、生徒さんの個々の演奏能力に応じて、リアルタイムで優しくアレンジしたオリジナル楽譜を作成出来るくらいの音楽的能力がある先生でないと、生徒さんのレッスンを成功に導くのは難しいのが現実です。

## 先生も大変です

以上のようなことを考えると、先生も一人の生徒さんに対して、完全個別対応の必要があり、従来のように画一的なレッスンや、教則本の何ページ終了というレッスンではうまくいきません。先生自身もレッスン時間以外に、個々の生徒さんのレッスンに対する予習といますか、何かと準備が必要になります。

ですから、初心者のお子様（中高年なら尚更）のピアノレッスンを成功させるためには、個人レッスンだから良いという意味ではなく（もちろん、個人レッスンが必須ですが）個々の生徒さんの音楽的能力や弾きたい曲の内容まで、個別に準備、対応できる音楽的能力（指導力）のある先生が必要だということです。

## ピアノで心豊かな人生を！

我々の目標は、生涯を通じて、趣味でピアノを弾き続ける仲間を一人でも多く増やすことです。そうすれば、生きる喜びや人生にもより潤いが出てきます。またそのような音楽を通じた活動の中からの新しい出会いや交流が広がります。

そのようなことを体験していきますと、世の中の価値観や同じ景色をみても感じ方が良い意味で、少しずつ変わってくると思っていますし、従来の物質文明ではなく、心の時代と言いますか、平和で穏かで楽しい世の中になると思います。

## ご不明なところは、お気軽にお問い合わせ下さい。

(株) 浜松ピアノ店      植田 信五

T E L 086-264-8417      F A X 086-264-4970      営業時間 朝 10 時～夜 7 時

〒700-0943 岡山市新福 1 丁目 10-27      浜松ピアノ店      (月曜定休)

ホームページもご覧下さい。 <http://www.hamamatsu-piano.co.jp>

## ■著者

植田 信五 (うえだ しんご)

ピアノ音楽指導研究会代表。1949年、岡山県生まれ。大学を卒業後、大手楽器メーカーの卸部門に勤務。その後、当時取引先であった浜松ピアノの要請で入社。現在、代表取締役。過去、1万台近いピアノを販売。業界での幅広い人脈を生かし、ホールのピアノ活用アドバイスや世界的ピアニストのコンサートも企画・実施。